

氏名 <small>(法人にあっては名称)</small>	グランドプリンスホテル広島
住所	広島県広島市南区元宇品町23-1
計画期間	令和4年4月1日～令和7年3月31日
基準年度(*1)	平成元年度～令和3年度(平均)

1 事業者の要件 ((1)、(2)については、特定年度(*2)における市内に設置された全ての事業所の合計量)

該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/> (1)原油換算エネルギー使用量(*3)が1,500キロリットル以上(特定事業者) <input type="checkbox"/> (2)エネルギー起源二酸化炭素を除く物質ごとの温室効果ガス排出量(*4)が3,000トン以上(特定事業者) <input type="checkbox"/> (3)特定事業者以外の事業者
------------	---

2 事業の概要

事業者の業種	旅館、ホテル (主たる事業の日本標準産業分類における細分類番号：7511)
事業の概要	客室、レストラン、宴会場、婚礼施設、温泉施設等

3 温室効果ガスの排出の抑制等に関する推進体制

(総責任者：総支配人) - (支配人) - (施設責任者) - (施設担当者) - (各現場)

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標

項目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	削減量の対基準年度比
	令和元～令和3年度 (平均値)	令和4～令和6年度 (平均値)	$((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量)
温室効果ガス実排出量(*5)	6,899 t-CO ₂	9,047 t-CO ₂	-31.1 %
温室効果ガスみなし排出量(*6)		9,047 t-CO ₂	-31.1 %
目標設定の考え方	令和元年～令和3年度の平均値はコロナによるホテル休業により激減しており今年からの目標には参考が出来ないため、前回分の目標値の9,047を目標とする。		

- *1 基準年度とは、温室効果ガスの抑制割合を比較する基準の年度であり、原則として特定年度(*2)とする。なお、基準年度の温室効果ガス実排出量(*5)については、事業活動の著しい変動等により特定年度が基準年度として適当でないときは、事業者の判断により、特定年度を含む連続した過去3か年度の平均値とすることができる。
- *2 特定年度とは、計画期間となるべき期間の最初の年度の前年度をいう。
- *3 原油換算エネルギー使用量とは、燃料の量並びに他人から供給された熱及び電気の量をそれぞれ発熱量に換算した後、原油の数量に換算した量の合算をいう。
- *4 温室効果ガス排出量とは、二酸化炭素(エネルギー起源のもの及び非エネルギー起源のもの)、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン及び六ふっ化硫黄)の排出量を二酸化炭素の数量に換算したものをいう。
- *5 温室効果ガス実排出量とは、上記(*4)のうちエネルギー起源二酸化炭素の排出量と、それ以外の物質ごとの温室効果ガス排出量が特定事業者単位で3,000トン以上のものの排出量の合算をいう。
- *6 温室効果ガスみなし排出量とは、上記(*5)に対して環境価値(*8)に相当する温室効果ガスの削減量等を調整したものをいう。なお、環境価値が活用されないときの温室効果ガスみなし排出量は、温室効果ガス実排出量と等しくなる。

(2) 事業分類ごとの原単位(*7)の抑制に関する目標 (※任意記載)

事業分類	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	削減量の対基準年度比
	令和元～令和3年度 (平均値)	令和4～令和6年度 (平均値)	$((a-b)/a) \times 100$
			%
			%
			%
原単位の指標及び 目標設定の考え方			

(3) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の内容

コージェネレーションシステムによるエネルギー使用の効率化
 白熱電球からLED電球への交換
 高効率ボイラへ更新 (炉筒煙管ボイラ7.2t×2台 ⇒ 還流ボイラ2.0t×4台)

(4) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の内容 (環境価値(*8)の活用等)

特になし

(5) 温室効果ガスの排出の抑制等に関する基本方針

不使用部の照明、空調のOFF
 負荷に応じボイラー、冷凍機、ポンプ等の台数制御を行う
 コージェネレーションシステムによるエネルギーの効率化

5 その他の取組

- ・ホテルエネルギー使用に関して専門業者との定期的な検討会の実施
- ・客室低稼働時に消灯フロアの実施
- ・レストラン等で使用しているストローを紙製へ切替、売店等で渡していたビニル袋を有料にし、マイバック使用を推奨。
- ・国内施設の直営店舗においてプラスチック製買い物袋の有料化を開始し、1枚3円にて販売し、その売上金を各施設が位置する地方自治体に寄付し、地域の環境保全活動や社会貢献活動に活用いただきます。

*7 原単位とは、温室効果ガス排出量を生産量、延べ床面積等の当該排出量と密接な関係を持つ値で除したものをいう。

*8 環境価値とは、オフセットクレジット制度等により、温室効果ガスの排出削減等を行うプロジェクトを通じて生成される温室効果ガスの削減量等をいう。なお、温室効果ガスみなし排出量(*6)の調整対象となる環境価値は市内分とし、市長が認めるものに限る。

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標等

(※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要)

事業所の名称	グランドプリンスホテル広島
事業所の所在地	広島県広島市南区元宇品町2-3-1
事業所の業種	旅館、ホテル
事業の概要	客室、レストラン、宴会場、婚礼施設、温泉施設等

1 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標

項目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	削減量の対基準年度比
	令和元～令和3年度 (平均値)	令和4～令和6年度 (平均値)	$((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量)
温室効果ガス 実排出量	6,899 t-CO ₂	9,047 t-CO ₂	-31.1 %
温室効果ガス みなし排出量		9,047 t-CO ₂	-31.1 %
目標設定の考え方	令和元年～令和3年度の平均値はコロナによるホテル休業により激減しており今年からの目標には参考に出来ないため、前回分の目標値の9,047を目標とする。		

(2) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の内容

コージェネレーションシステムによるエネルギー使用の効率化 白熱電球からLED電球への交換 高効率ボイラへ更新 (炉筒煙管ボイラ7.2t×2台 ⇒ 還流ボイラ2.0t×4台)
--

(3) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の内容 (環境価値の活用等)

特になし

2 その他の取組

<ul style="list-style-type: none"> ホテルエネルギー使用に関して専門業者との定期的な検討会の実施 客室低稼働時に消灯フロアの実施 レストラン等で使用しているストローを紙製へ切替、売店等で渡していたビニル袋を有料にし、マイバック使用を推奨。 国内施設の直営店舗においてプラスチック製買い物袋の有料化を開始し、1枚3円にて販売し、その売上金を各施設が位置する地方自治体に寄付し、地域の環境保全活動や社会貢献活動に活用いただきます。
--